

---

# 第4章

---

## 防災指針

---

## 第4章 防災指針

本章では、居住誘導区域内における災害リスクを評価し、その上で必要となる防災・減災に資する取組施策について位置付けます。

### 1 防災指針について

#### (1) 防災指針とは

防災指針は、主に居住誘導区域において、居住や都市機能の誘導を図る上で必要となる都市の防災に関する機能の確保を図るための指針であり、防災指針に基づく具体的な取組と合わせて立地適正化計画に定めるものです。

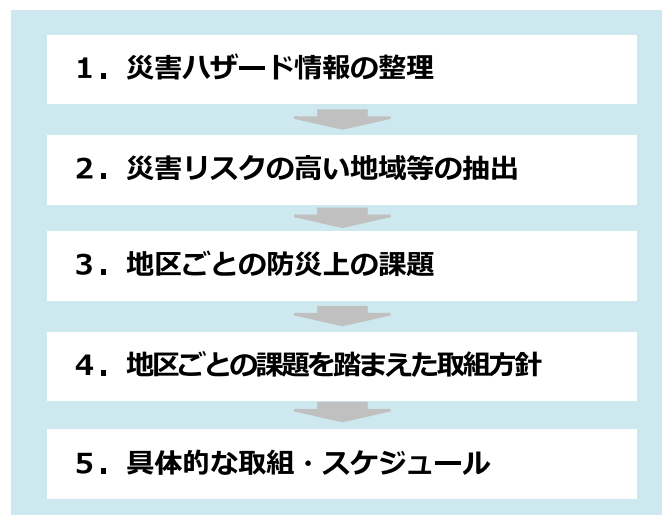
災害ハザード情報と都市情報を重ね合わせることで、居住や都市機能の誘導を図る上で必要となる都市の防災に関する情報の分析を行い、災害リスクの高い地域等を抽出します。

災害リスクの高い地域ごとの課題を踏まえた防災・減災の取組方針及び各種災害に対して安全性を高めるための具体的な取組を定めます。

#### (2) 防災指針検討の流れ

防災指針は、以下の検討フローに基づき検討を進めます。

《検討フロー》



### (3) 対象とする災害ハザード情報

居住誘導区域や都市機能誘導区域の災害リスク分析を行うに当たり、対象とする災害ハザード情報は、市内で発生リスクがある洪水、内水、盛土、地震とします。

#### 《対象とする災害ハザード情報》

分類	災害ハザード情報等
1. 洪水	1)洪水浸水想定区域等(浸水深:想定最大規模)
	2)洪水浸水想定区域等(浸水深:計画規模)
	3)洪水浸水想定区域等(浸水継続時間:想定最大規模)
	4)家屋倒壊等氾濫想定区域等(氾濫流・河岸侵食)
2. 内水	浸水実績
3. 盛土	大規模盛土造成地
4. 地震	1)液状化
	2)全壊率

※洪水浸水想定区域等	水防法に基づき、国及び県が指定する想定最大規模降雨により氾濫した場合に浸水が想定される区域、及び洪水浸水想定区域以外の県管理河川について水防法に準じて県が公表している水害リスク情報図で示された区域
※想定最大規模	現時点の技術により、当該地域において想定される最大規模の降雨で、発生確率が、1,000年に1回程度の降雨
※計画規模	河川の流域の大きさや想定される被害の大きさを考慮して定める、河川整備において基本となる降雨で、発生確率が100年から200年に1回程度の降雨
※浸水継続時間	降雨による河川の氾濫が発生した際に、浸水深0.5m以上が継続する時間。浸水深0.5m以上で徒歩による移動困難や床上浸水が発生するおそれがある。
※家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）	家屋の流失・倒壊をもたらすような洪水の氾濫流が発生するおそれがある範囲において、河川堤防の決壊または洪水氾濫流により、木造家屋の倒壊のおそれがある区域
※家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）	家屋の流失・倒壊をもたらすような洪水時の河岸侵食が発生するおそれがある範囲において、河岸が侵食されることにより、家屋の基礎を支える地盤が流失し、家屋本体の構造に依らず倒壊・流出のおそれがある区域
※内水	下水道の雨水排水能力を超える降雨により、雨を河川等の公共の水域に放流できない場合に発生する浸水
※大規模盛土造成地	面積3,000㎡以上の谷埋めの盛土、又は原地盤の勾配が20度以上かつ盛土高5m以上の腹付け盛土がなされた造成地
※液状化	地震の揺れによって地盤が泥水のように柔らかくなる現象
※全壊率	地域内の建物の中で全壊する可能性の高い建物の割合

## (4) 災害ハザード情報の整理

洪水、内水、盛土、地震に関する災害ハザード情報ごとの市内の状況を整理します。

### 《災害ハザード情報の整理》

分類	災害ハザード情報等	市内の状況
1. 洪水	1) 洪水浸水想定区域等 (浸水深: 想定最大規模)	最も洪水浸水想定区域の範囲が広い利根川では、市域の大半が指定されており、白岡駅・新白岡駅周辺は、浸水深が0.5mから3.0m未満、県道さいたま栗橋線周辺は3.0mから5.0m未満となっています。
	2) 洪水浸水想定区域等 (浸水深: 計画規模)	最も洪水浸水想定区域の範囲が広い利根川では、市域の大半が指定されており、市街化区域内では、浸水深がおおむね3.0m未満となっており、県道さいたま栗橋線周辺の一部は3.0mから5.0m未満となっています。
	3) 洪水浸水想定区域等 (浸水継続時間: 想定最大規模)	最も洪水浸水想定区域の範囲が広い利根川の浸水継続時間は、大部分が72時間(3日間)以上の区域となっており、県道さいたま栗橋線周辺は、1週間以上、浸水が継続する区域となっています。
	4) 家屋倒壊等氾濫想定区域 (氾濫流・河岸侵食)	中川流域の洪水浸水想定区域等に家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸侵食)が指定されており、市街化区域内では、元荒川、星川、隼人堀川、姫宮落川沿いが指定されています。
2. 内水	浸水実績	内水による浸水は、市街化区域内では、白岡駅周辺、西地区の一部、東北自動車のアンダーパスなどで発生しています。
3. 盛土	大規模盛土造成地	県道さいたま栗橋線周辺に大規模盛土造成地が1か所あります。
4. 地震	1) 液状化	市街化区域内では、新白岡駅周辺や県道さいたま栗橋線周辺が、液状化の可能性が高くなっています。
	2) 全壊率	市街化区域内では、全壊率が7%以上の危険度が高い地域は少なくなっています。

## 2 災害リスクの高い地域等の抽出

災害ハザード情報と、住宅の分布、避難所、病院等の都市情報を重ね合わせ、災害リスクの高い地域等を抽出します。

防災指針は「居住誘導区域及び都市機能誘導区域において、住宅や誘導施設の立地に必要な防災・減災対策の指針」であることから、市内全域を対象として行った災害ハザード情報を基に、**居住誘導区域**において、災害リスクの高い地域等の抽出を行います。

また、近年の豪雨災害の激甚化・頻発化を考慮し、洪水浸水想定区域のデータを用いた分析及び評価は「**想定最大規模**（1,000年に1度程度の降雨）」を採用し、洪水浸水想定区域のデータは、**最も範囲の広い利根川を利用**することとしました。

地震については、影響の範囲や程度を即地的に定め、誘導的手法により災害リスクの低減を図ることが難しいため、災害リスクの高い地域等の抽出の対象としませんが、市内全域において建物の耐震化・不燃化を促進することにより、災害リスクの低減を図ります。

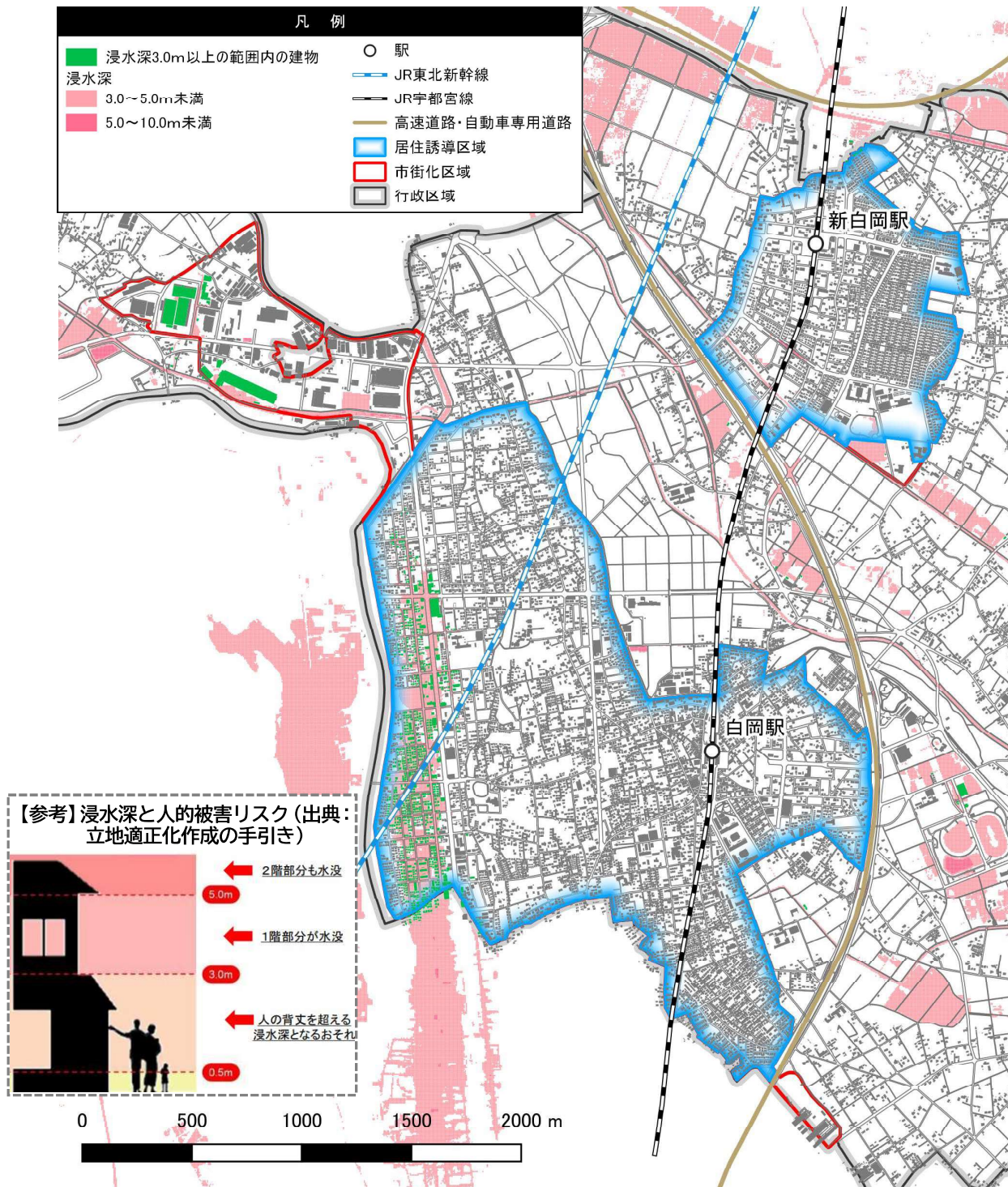
### ≪災害ハザード情報と都市情報の重ね合わせと分析の視点≫

重ね合わせの情報	分析の視点	定量的な評価
1. 洪水浸水深×建物	垂直避難で対応できるか	建物数
2. 洪水浸水深×避難場所	避難場所が使用可能か	機能低下する施設数
3. 洪水浸水深× 都市機能(医療施設・福祉施設)	施設が継続利用できるか	
4. 洪水浸水深× 道路(アンダーパス)	道路網として通行可能か	寸断する道路箇所数
5. 浸水継続時間×建物	長期の孤立の可能性がないか	孤立可能性のある建物数
6. 家屋倒壊等氾濫想定区域×建物	家屋倒壊等の危険性がないか	建物数

## (1) 洪水浸水深×建物

2階建ての建物でも垂直避難が困難となる3m以上の洪水浸水想定区域は、主に県道さいたま栗橋線周辺に広がっており、居住誘導区域内においては、約800棟（約7%）がその範囲に含まれています。

《3m以上の洪水浸水深×建物》



出典：洪水浸水深＞利根川水系利根川洪水浸水想定区域図（利根川上流河川事務所・利根川下流河川事務所）  
 建物＞白岡市データ

## (2) 洪水浸水深×避難場所

居住誘導区域内において、洪水による浸水被害等が発生した際に使用できる指定緊急避難場所は2か所あり、2階以上が使用可能な指定緊急避難場所は4か所となっています。

《洪水浸水深×避難場所》



出典：洪水浸水深＞利根川水系利根川洪水浸水想定区域図（利根川上流河川事務所・利根川下流河川事務所）  
指定緊急避難場所＞白岡市地震・洪水ハザードマップ（令和4年（2022年）4月）